

繁田 雅弘

”MORITA”と”SHIGETA”で患者に尽くす、認知症治療の権威

文 高橋 誠

text by Mac Takahashi

学校法人慈恵大学広報推進室長
医療・健康コミュニケーター

1919（大正8）年、仏教や東洋哲学に精通した精神科医 森田正馬（まさたけ）博士（東京慈恵会医科大学精神医学講座初代教授）は神経症の治療法”MORITAセラピー”を創始しました。

正馬の”生活の再発見”（＝好きで習



繁田医師が神奈川県平塚市の空き家状態の実家（築50年木造2階建て）を活動拠点に、クラウドファンディングで資金調達の上で再生、開所した”SHIGETAハウス”。「同じ高さの目線で、自分の言葉を伝えることが認知症の方が安心して暮らせる社会を作る近道。生まれ育った平塚に貢献できれば嬉しい」と話す繁田医師。

代目主任教授・精神神経科診療部長繁田雅弘医師は、高齢者の認知症に”生活の再発見”を応用して治療の幅を広げ、認知症や軽度認知機能障害（認知症の疑いを含む）の初期対応、症状改善に成果を上げている、認知症治療の第一人者です。

平塚市の実家を認知症啓発の拠点として開放

高齢者の認知症患者は、団塊の世代が75歳以上になる2025年に700万人超、65歳以上の5人に1人と推計されています。

日本認知症ケア学会理事長も務める繁田医師は、子供から大人までの世代が認知症について知り、認知症になっても安心して暮らせる街づくりを目指し、空き家だった平塚市の実家を地域の認知症啓発の拠点とする”SHIGETAハウスプロジェクト”を2018年10月、発足しました。

医療関係者、編集者、元TVディレクター、弁護士、税理士、地域包括支援センター（高齢者よろず相談センター）スタッフ、若年性認知症支援コーディネーターなど各分野の専門家が集結、協力しています。

2019年5月、同ハウスで認知症の人とその家族を招いた「平塚カフェ」

が開かれ、医師、看護師、地元中学校生徒13人、支援者らも含め約70人が参加、日常生活や学校で起きた何気ない会話でほのぼのとした交流が図られました。

”MORITAセラピー”と”SHIGETAハウス”の両輪で、認知症の人の就労支援、社会参加の場、家族支援の充実などに積極的に取り組む繁田医師。「見失ってしまった生活から、本来の生活を取り戻すような養生の仕方をご一緒に探っていきましょう」と日々、患者さんに語りかけています。



Profile

学校法人慈恵大学広報推進室長。医療・健康コミュニケーター。
東京生まれ横浜育ち。慶應義塾大学経済学部卒。ミスノ東京広報宣伝室、リクルート宣伝企画部、米国印刷会社 NewDesignConcepter（LA在住12年）、食品会社エグゼクティブPRアドバイザー、ゴルフ場経営など日米複数企業の広報・マーケティング職を経て、2004年より現職。「病院広報研究会」、「湾岸下町ライフデザイン戦略会議」、「経営戦略ユニット・海医会」主宰。
ダイヤモンド・オンラインで連載コラム「森田療法式・心の健康法」を執筆中。
趣味はゴルフ、ワイン（日本ソムリエ協会ワインエキスパート#58）。

Medicine Health
医療・健康分野のスーパーパイオニアたち

慣としてきた本来の生活を思い出す）の教えは、近年、神経症の治療のみならず、認知症、慢性の痛み、アトピー性皮膚炎など多診療領域に応用されています。

東京慈恵会医科大学精神医学講座七